

健康経営の実践紹介

～白石ポリテックス工業における健康経営～



2023
健康経営優良法人
Health and productivity
ブライツ500

企業紹介

代表者：会長 田中健朗
社長 會田幸一郎(登壇者)

事業内容：婦人服縫製・プリーツ加工業

1969(昭和44)年宮城県白石市にて設立

2011(平成23)年3月東日本大震災により被災

2018(平成30)年1月蔵王町に新工場移転

従業員数：114名(平均年齢43.2才)

男女割合：女性90名(80%) 男性24名(20%)

特徴：世界的有名ブランドとお取引

(縫製から加工まで一貫生産)

プリーツマシン40台保有

(月産3万着超は国内トップ)




健康経営に取り組んだ経緯

□ 総務部が法的な健康管理や安全衛生管理、働き方改革などの各種制度や施策にもれなく取り組んで来たことがベース。20年程前から産休育休制度をいち早くスタートさせるなどして社員の心身の健康、ワークライフバランス、仕事と家庭の両立をめざした経営に取り組む。

□ 近年、「社員の幸せ」を経営方針に掲げており、社員の8割を占める女性が出産・子育てをしながら持続的に働くことができる環境を整備する必要があった。

□ 将来の少子高齢化による労働人口減少・人材採用難に備えて、企業ブランド価値・イメージ向上を図ることも人材確保に繋がる一つ的手段として、経営戦略的に健康経営を指向。

令和元年7月1日

 白石ポリテックス工業株式会社

経営理念

『プリーツで世界中の人々に
感動を届けます』

経営方針

1. 「開拓と品質へのこだわり」
2. 「お客様の喜び」
3. 「社員の幸せ」

行動計画

1. 技術を進化させ、技能を伝承する。
2. プリーツにこだわり、お客様にご満足していただく。
3. 良いものを作り、人生を幸せにする。



取組みの内容(健康投資)

□社内取組み(→納得感向上)

～平時から～

- ・ 毎日、始業前に部署毎に全員でラジオ体操を実施(7月から15時休憩時も)。
- ・ 毎年、運動や減塩に関する保健所のイベント、協会けんぽの出前講座、宮城県健康月間(歩数アップチャレンジ等)に参加し、社内での運動機会を創出。

～コロナの有事に於いては“今やるべきこと、できること”社会貢献を志向～

- ・ 自社で製造した布マスクを地元の白石市・蔵王町の小中学生全員に無料で計6,500枚配布。
- ・ 清掃活動として、県道のゴミ拾いを毎月実施。
- ・ 学生支援として、ファッション専門学校2校へのプリーツ製作の授業を行う
- ・ 他、障がい者就労支援として、モノづくりの共同開発にも取り組む。
- ・ 「マイSDGs宣言」として、全社員が個人目標を立てる。

～働きやすい職場環境をめざして～

- ・ 女性活躍推進、次世代法の一般事業主行動計画を策定し推進。

取組みの内容(健康投資)

- ・両立支援コーディネーターが産休育休の利用前に本人と面談し、休業から復帰までのプランを立案。
所属長と内容を共有する等手厚くサポート(復帰率100%)。
- ・「社内報」を毎月発行。休業中の社員や家族向けに健康情報を含めた様々な社内情報を提供。
- ・産休育休制度を利用した社員との座談会を実施(→国へ少子化対策を提言)。
- ・男性社員の育児休暇取得を推奨し、実績(2カ月以上取得)をあげている。
- ・アニバーサリー休暇や子の介護休暇制度を導入し、有給休暇取得促進。
→ユースエール認定(二年連続、[仙南地区1社のみ](#))
- ・健康被害撲滅のため、工場内禁煙を実施し「受動喫煙防止宣言施設」に登録。

□社外発信(→差異化戦略)

- ・「健康経営」の具体的取組等を講演会やセミナー登壇を通じて对外発信。
さらに、地域・社会貢献活動や学生支援(SDGs)活動の様子は、新聞メディア・ホームページ動画・学生のSNS掲載等を通じて積極的に情報発信。

取組みの内容(健康投資)

□ 取組みを続けた効果

- ・ 歩数アップチャレンジやストレッチ講座等健康増進企画では、「体力が向上した」「健康診断の数値が改善した」「楽しく取り組めた」と回答した人が80%いて、成果が実感できている。
- ・ 平時のような全社員でのスポーツ活動が実施困難な状況でも、有事の健康経営と捉えて今できることを行動してきたことが、上司・同僚とのコミュニケーションアップやエンゲージメント向上につながり、ストレスチェックの総合健康リスクも良化傾向にある。
- ・ 産休育休からの復帰率は100%。同制度を利用して育った子は25名以上。
- ・ 健康経営の取組みをきっかけに、専門学校生2名が入社(来春も1名内定)。地域や学生への企業認知度の向上に繋がっている。

ブライト500について

□ 取得の道のり

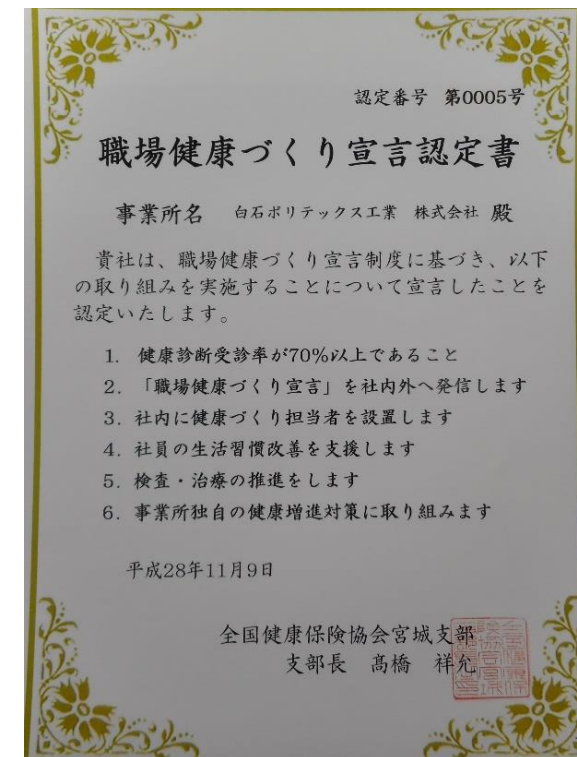
① 「職場健康づくり宣言認定」を社内外へ発信 2016年11月
～県南地域では第1号認定企業～

② 「スマートみやぎ健民会議会員に登録 2019年12月
～県内298社、蔵王町3社目～

〈スマートアクション宣言〉

- ・ 私たちは、健康経営(従業員の健康維持・増進)に取り組みます(従業員向け)
- ・ 私たちは、ホームページや広報誌等による健康情報の発信に取り組みます(県民向け)

③ 「健康経営優良法人2020認定」 2020年3月
～コロナ禍で有事の健康経営を余儀なくされる～
〈仙南労務研究会で講演登壇〉 2020年11月



2023
健康経営優良法人
Health and productivity
ブライト500

ブライト500について

- ④ 「健康経営優良法人2021認定(ブライト500)」 2021年3月
〈仙台放送・保健同人社健康オンラインセミナー登壇〉 2021年11月
〈全国健康保険協会、職場の健康づくり好事例集掲載〉 2022年2月
- ⑤ 「健康経営優良法人2022認定(ブライト500)」 2022年3月
〈厚生労働省「ユースエール2022認定」、[仙南地区1号](#)〉 2022年8月
〈仙南保健所、せんなん健康チャレンジウィーク参加〉 2022年10月
〈サントリーウエルネスHP健康コラボに掲載〉 2022年10月
〈経済産業省「連携事業継続力強化計画」認定〉 2022年12月
〈スマートみやぎ健民優良賞…TVニュース放送〉 2023年2月
〈宮城県歩数アップチャレンジ結果、[仙南地区1位](#)〉 2023年2月
- ⑥ 「健康経営優良法人2023認定(ブライト500)、[仙南地区1社](#)」 2023年3月
〈東北経産局、健康経営優良法人事例集掲載、[県内2社](#)〉 2023年4月
〈厚生労働省「くるみん認定」、[仙南地区2社目](#)〉 2023年5月
〈厚生労働省「ユースエール2023認定」、[仙南地区1社](#)〉 2023年6月



ブライト500について

□取得に苦勞・注力したこと

- ・社内外のイベントには、経営陣が総務部と企画し率先して実行。全員参加が難しい場合、募集をかけながら、安全衛生委員会メンバーからチーム編成してスタートしてみる等旗を掲げながらチャレンジを促した。

□様々な認定へ挑戦している理由、メリット

- ・労働力不足、採用難の時代こそ、社員の「働きやすさ」と「健康」を整えることで社員を幸せにでき業績も向上するという考え。従って、採用のための戦略・戦術はできる限りのことはしようと挑戦し続けている。
- ・中小企業では独自の企画・実施力にも限界があり、常に労務研究会などで国の施策を勉強し、いち早く挑戦することに注力。様々な制度認定を目指して、認定・表彰されればHPに公表・PRし、企業イメージアップに繋げてきた結果、ブライト500認定。

ブライト500について

□取得して良かったと思うこと

- ・リクルート効果として、新卒・中途採用者の増加30名弱あり。特に、地域貢献や学生支援活動などを通じて企業認知度が向上しファッション専門学校生の人材採用にも結びついている。
- ・会社外からの反応として、新規のお取引先(健康経営や環境問題へ積極的に取り組んでいる大手企業複数)と弊社HPを切っ掛けに取引開始に至っている。
- ・対外発信していることが、スマートみやぎ健民優良賞(企業部門)受賞理由にもなり、社員のモチベーションがアップすることで、会社・社員のウェルビーイングの向上につながると信じています。

ぽりてNEWS

トピックス①〇〇〇〇さんが育児休業から復帰しました

マシン課の〇〇〇〇さんが、男性社員初の育児休業を取得され、先日復帰しました。これからは男性の育児休業が取りやすい環境を作るため、お話を聞きました。



育児休業中は、出産間もない妻の体力も落ちていたので、少しでも支えになれるよう気をつけたり、積極的に子供の世話をしました。
オムツの交換や夜泣きの対応、育児用品の買い出しなど、子育てにはとても沢山の仕事があって、今までは主に女性一人で行っていた事に驚きました。
育児休業がなければ、ここまで子供と係る時間もなく妻一人に任せてしまっていたと思います。より自分の子供としての実感も湧き、可愛さもひとしおです。これからは積極的にお世話をして成長を楽しみたいです。

トピックス④ 今年も歩数アップチャレンジ実施

実施期間：令和5年10月1日～11月30日
3人1組のチームで、それぞれ歩数を計測し目標歩数の達成を目指します！

参加予定 8チーム 24名

がんばってください！



トピックス⑤ 出前健康づくり講座を実施しました

6月27日食生活と健康について「食事セミナー」を実施しました。
協会けんぽ様より講師をお迎えし、約15名の社員が貴重なお話を伺いました。



東日本大震災から10年

東日本大震災から10年、今、コロナ禍という新たな試練がファッション業界はもちろん、世界中を襲っている。とくに東北地方は縫製業や繊維産地が集積するエリアが多い。震災直後もアパレルメーカーや小売業が「仕事（発注）を継続してくれることが被災した工場への復興につながる」との切実な声が寄せられた。いくつもの難局を乗り越えてきた被災企業への思いを未来へつなぐためにも震災復興の経験を忘れてはならない。

―1面参照

白石ポリテックス工業

プリーツで切り開く明日



技術継承を着実にいき、持続的な発展を目指す
田中健朗会長（右）と會田幸一郎社長

いる。新卒者を定期採用し、20年度は6人が入社。同社全体の平均年齢は40歳と若い。また、若手クリエイター育成支援も行っており、宮城県内のファッション専門学校卒業作品の制作を学生たちと共に取り組んでいる。技術継承を着実にいき、新しい創造性を育てることで持続的な発展を目指している。

プリーツ加工・縫製に特化した白石ポリテックス工業（宮城県蔵王町）はプリーツマシン約40台、各種ミシン約50台を有し、熟練工のハンドメイドプリーツの技を組み合わせた高度な技術で、世界的デザイナーブランドのクリエイションを30年来支えている。

東日本大震災の際、宮城県白石市にあった旧社屋（18年に移転）では、被災時に数トンのプリーツマシンの約20台も動き、建屋の壁面は2階部分もろとも崩落。地震直後から3週間通電がなくライフラインの確保もままならなかった。しかし、当時の従業員80人は幸いに大きなけがはなく全員無事だった。約1カ月後に操業を再開し、迅速に復旧を遂げた。18年には近隣の蔵王町へ工場を移設、生産能力

の増強とともに人員を拡大、現在では総勢100人規模、月産3万着の工場となった。

国内製造業が縮小するなかで、白石ポリテックス工業が震災を乗り越えて生産の拡充を成し遂げたのは、プリーツ加工の分野で品質や技術で国内トップクラスの水準であったことが大きな要因だ。マシンで均整の取れたヘリンボーンプリーツを施した後に、裾部分にハンドプリーツでクラッシュ加工を加えたエレガントなスカート。マシンによるランダムプリーツとハンドによる亀甲柄を生地の表面で組み合わせた上品なドレス。これら唯一無二の技が、高付加価値のファッションを求め、ブランドを長年にわたって引き付けている。

同社は人材育成に力をいれて



【SDGs(目標17「つくる責任つかう責任」)への取組】

“ファッション文化専門学校DREME学生さんのPOP UP SHOP企画を支援”

弊社は、プリーツ加工のリーディングカンパニーとして、ファッション業界でも重要な課題となっているSDGsの目標に焦点を当てて、消費者に長く着ていただける定番商品開発にも取組んでいます。

従来から、社会貢献活動の一環として学生さんの支援活動を行ってきた中で、企業・学生の思いが一致し、今般、SDGsな定番アコーデオンプリーツスカートの加工をお手伝いさせていただきました。

企画、デザイン、縫製、ブランド設立から三越仙台店への出店、販売まで全てを学生達が行い、9/22~9/26の5日間三越仙台店にショップをオープンされました。

ショップ内には、弊社紹介コーナーも設置されて、ビデオ放映やパンフレットでお客様にPRしてくれました。

定番プリーツに定番チェック柄のワンポイントを組合わせた商品は、ジェンダーレスなかわいさと合わせやすさが両立しており、つかう方の年代を問わず長く着られると評判良好で完売されたとのこと、つくる責任の役割と大切さを現場一同実感することが出来ました。

弊社は、健康経営優良法人(ブライト500)として、引き続き持続可能な活動に投資して参ります。



白石・全小中生に布マスクを

新型コロナウイルス感染症から子どもたちを守ろうと、婦人服縫製やプリーツ加工を手掛ける白石ポリテックス工業(蔵王町)は16日、白石市に市内小中13校の全児童生徒分の布マスク2500枚を寄贈した。
マスクは、通気性に優れたポリエステル製で夏場も蒸れにくく、耳ひもには伸縮性のある素材を使用。社会貢献の一環として計約6000枚を製造して蔵王町にも贈り、従業員も使っている。

蔵王の企業寄贈 自社製造2500枚

同社は白石市で創業し、2018年に蔵王町に移転した。市役所であった受納式で、市田中健朗会長は「創業以来、約50年のほとんどを白石で操業し、従業員の8割が市内から通う。長年の恩を少しでも返したい。マスクが健康の一助になればいい」とあいさつした。
山田裕一市長は「コロナ禍の影響を受ける中で、社会貢献はありがたい。通気性がいい布マスクを着用し、安全な教育環境づくりを推進したい」と話した。



自社製作の布マスクを山田市長(左)に手渡す田中会長



縫製セクション 佐藤 奈都美
1st Sewing Section Natsumi SATO



CAD 設計セクション 成澤 綾香
CAD Design Section Ayaka NARISAWA



マシンプリーツセクション 高橋 凌
Machine-Pleats Section Ryo TAKAHASHI



マシンプリーツセクション 高橋 ひな
Machine-Pleats Section Hina TAKAHASHI



ハンドプリーツセクション 鈴木 雄介
Hand-Pleats Section Yusuke SUZUKI



製品検査セクション 齋藤 努
Quality Inspection Section Tsutomu SAITO



工場長 清水 朋弥
Factory Manager Tomohiro SHIMIZU





白石ポリテックス工業株式会社

Shiroishi Polytex Industry Co., Ltd.